

新たな伝統を築く91人の新入生

朝日中学校入学式

(4月8日；朝日中学校体育館)

広報

あさひまち

2004年4月
No. 569

特集 1 市町村合併を考えるシリーズ①

特集 2 平成16年度の町づくりと予算 職員人事

町政スポット 3月定例議会 院外処務総務

町立病院に内科医加藤宗孝先生登壇

まちの話題 朝日町高齢者福祉大会 スポーツ指導者研修会

ふれあい社の車両購入日自交財団から助成 ほか

町民アンケート調査から 反対が過半数を占める結果に

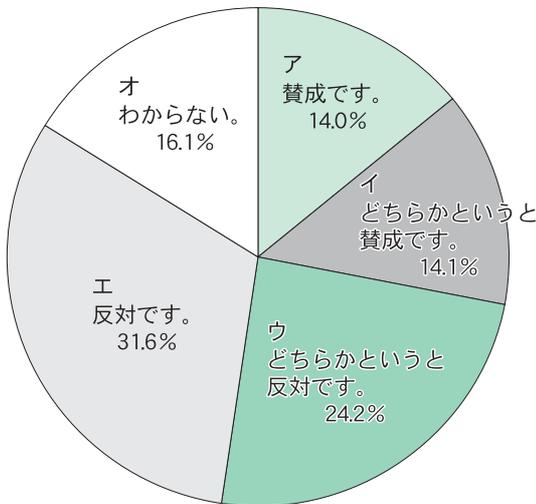
平成17年3月31日までの合併には…
反対 55.8% 賛成 28.1%

一月二十一日から二月十九日までの日程で、町内全集落で実施した合併に関する座談会。これを受けてこのたび、合併に関する町民へのアンケート調査が実施されました。アンケートの内容は、①賛成か反対か②その理由③その他の意見というように、町民の意見を的確に把握するために、また町民が回答しやすいようにと、質問項目を可能な限り少なくしたものとなりました。

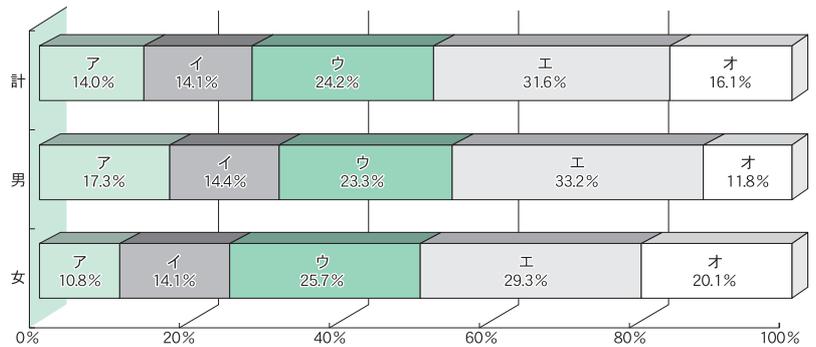
回答率は86・6%と高い値を示し、合併に関する町民意識の高さを示す結果となりました。この結果に清野町長は、謙虚に受け止めて対応したいと話しています。

今回の特集では、このアンケート結果と、町民のみなさんの意見を紹介します。

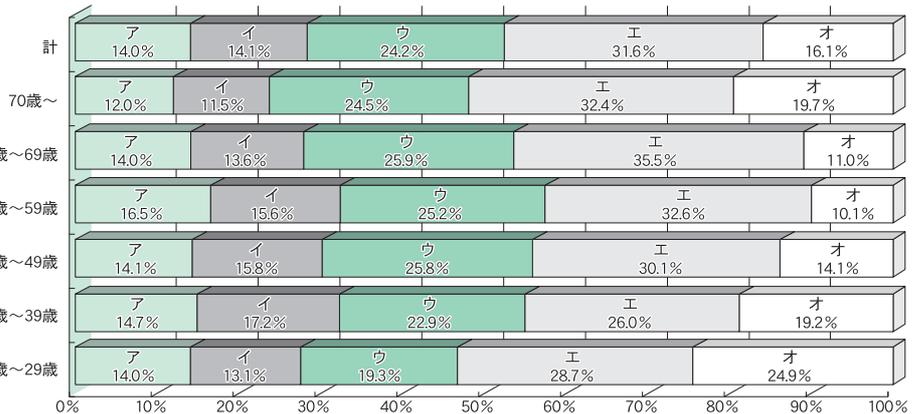
問1 寒河江市、西川町、朝日町の合併特例法に基づく平成17年3月31日までの合併について



(図1) 合併の賛否



(図2) 男女別合併の賛否



(図3) 年代別合併の賛否

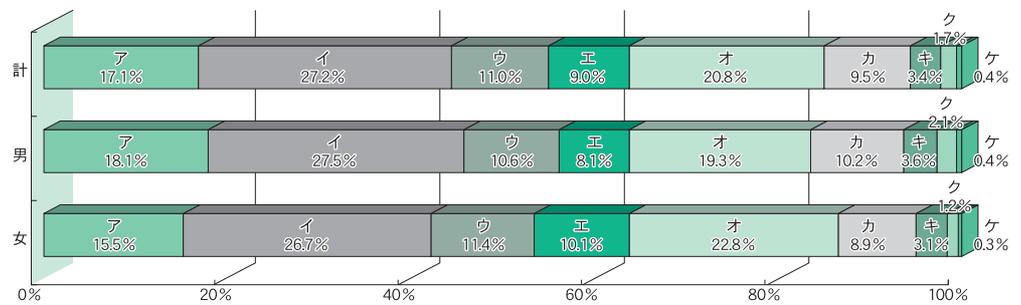
▼「反対です」「どちらかという反対です」の合計が55・8%と、「賛成です」「どちらかという賛成です」の合計28・1%を大きく上回っています。回答の選択肢の中では、「反対です」と答えた人が31・6%と最も多い結果となりました。これらの傾向は、男女別並びに年代別にみた場合も同じこと

問2 問1で「賛成」あるいは「どちらかという賛成」と答えた方に 合併について賛成であると思う理由は何ですか。(3つまで選択可)

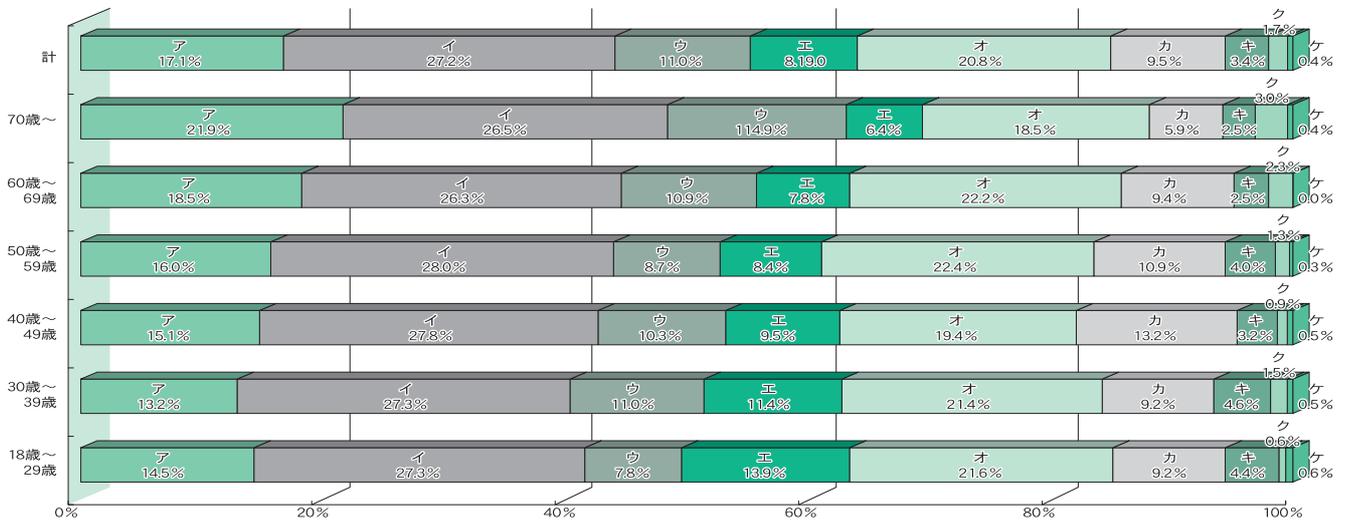
		回答数	構成比
ア	合併特例法による国の財政支援のある今、合併をすべきであると思われるから。	797	17.1%
イ	今後小さな市町村は、財政的に厳しい状況になると思われるから。	1,267	27.2%
ウ	福祉、サービス内容など行政の質の差が出ないようにすることが必要だから。	511	11.0%
エ	通勤、通学、医療、買い物など市町村を越えて広域化してきているから。	419	9.0%
オ	若者、働く人口や出生率が減少して、今後のまちづくりや地域の活力が心配だから。	969	20.8%
カ	管理部門の効率化や職員数の削減などにより、経費の削減と効率的な行政が期待できるから。	442	9.5%
キ	財政の規模が大きくなり、重点的な投資や大規模な生活基盤の整備ができるから。	159	3.4%
ク	国は、人口1万人未満の自治体に対し、合併を特に推進する考えがあるから。	81	1.7%
ケ	その他(具体的に：)	17	0.4%
	合計	4,662	100.0%

(表1)合併に賛成の理由

賛成



(図4)男女別賛成の理由



(図5)年代別賛成の理由

▼合併に反対する理由としてもっとも多いのが、「過疎化に拍車

(表1・図4~図5)

この傾向は、男女別並びに年代別にみた場合も同じことが言え、年齢が高くなればなるほど、町の将来の財政事情を懸念する人が増える傾向にあります。

次に多いのが、「若者、働く人口や出生率が減少して、今後のまちづくりや地域の活力が心配だから」と答えた人が20・8%、「合併特例法による国の財政支援のある今、合併をすべきであると思われるから」と答えた人が17・1%と続き、上位3つの理由で全体の過半数(65・1%)を占めることがわかります。

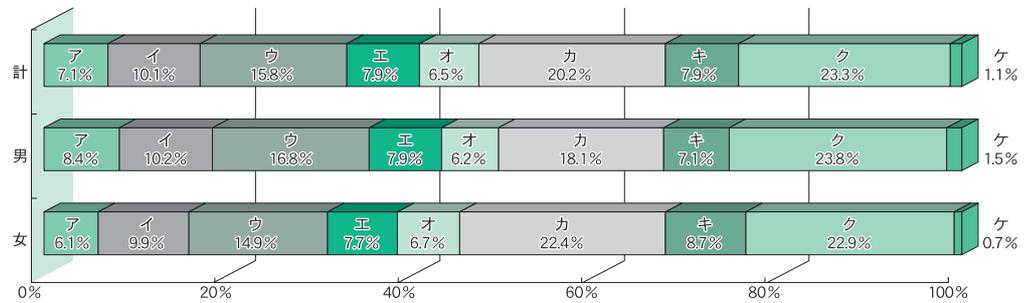
▼合併に賛成する理由としてもっとも多いのが、「小さな市町村は今後、財政的に厳しい状況になると思われるから」と答えた人で27・2%を占めています。
(図1~図3)

問3 問1で「反対」あるいは「どちらかという反対」と答えた方に 合併について反対であると思う理由は何ですか。(3つまで選択可)

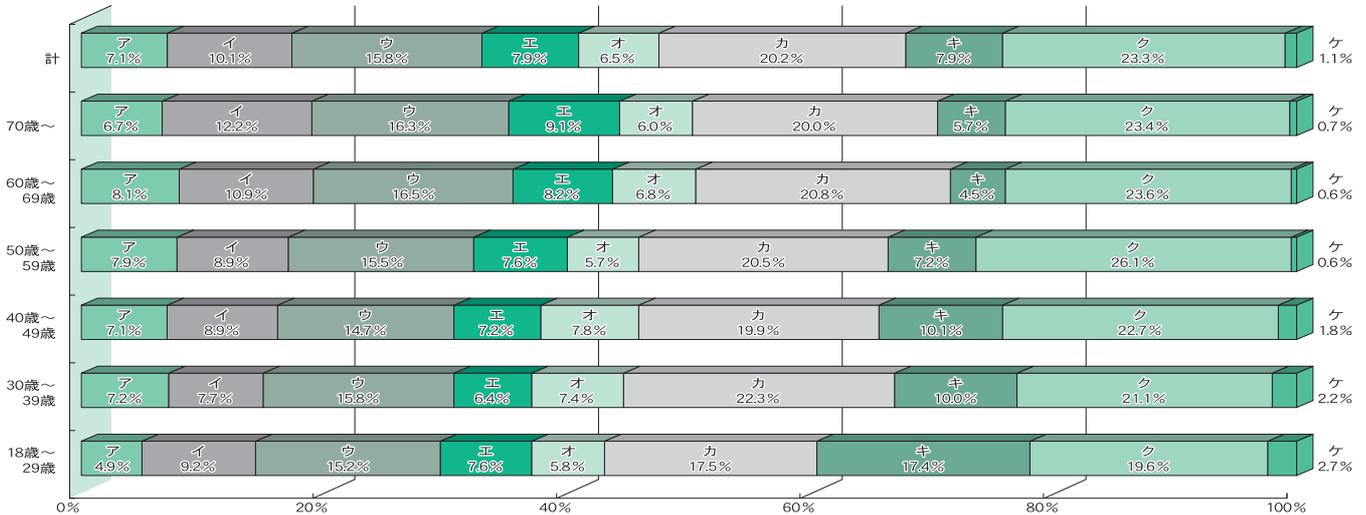
		回答数	構成比
ア	合併特例法に基づく期限付きの1市2町の合併については、時期尚早と思うから。	680	7.1%
イ	合併しなくても朝日町独自で行財政運営が可能であると思われるから。	966	10.1%
ウ	1市2町の合併では大江町を飛び越すため、今後のサービスに不安があるから。	1,511	15.8%
エ	合併しなくても、現在の広域行政等の推進により十分対応が可能であるから。	759	7.9%
オ	議員や職員数が減り、住民の意見が行政に反映されにくくなるから。	621	6.5%
カ	区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けられなくなると心配されるから。	1,928	20.2%
キ	歴史、文化、伝統といった地域の個性が失われ、地域の連帯感も薄れるから。	758	7.9%
ク	過疎化に拍車をかけ、新市の中心部と周辺部に地域格差が生じると心配されるから。	2,229	23.3%
ケ	その他(具体的に：)	109	1.1%
	合計	9,561	100.0%

(表2)合併に反対の理由

反対



(図6)男女別反対の理由



(図7)年代別反対の理由

▼合併の賛否について判断できない「わからない」と答えた人
にその理由を聞いてみると、「判断のための情報が少なく、現時点では判断ができないから」という人が全体の35・6%を占めることがわかります。
次に多いのが、「合併しても
しなくてもどちらでもよいから」、
「高齢者より若い方の問題と思

また、年齢が低いほど、「歴史、文化、伝統といった地域の個性が失われ、地域の連帯感も薄れるから」を理由とする人が多いようです。

(表2・図6～図7)

この傾向は、男女別並びに年代別にみた場合も同じことが言えます。

また、年齢が低いほど、「歴史、文化、伝統といった地域の個性が失われ、地域の連帯感も薄れるから」を理由とする人が多いようです。

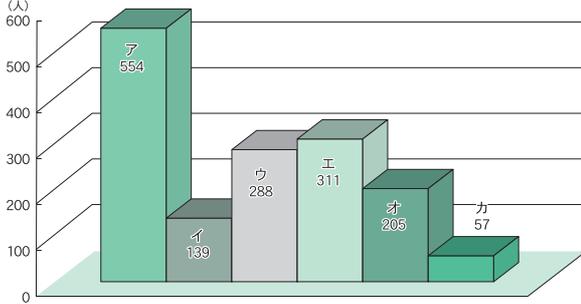
次に多いのが、「区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けられなくなると心配されるから」と答えた人が20・2%、「一市二町の合併では大江町を飛び越すため、今後のサービスに不安があるから」と答えた人が15・8%と続き、上位三つの理由で全体の過半数(59・3%)を占めることがわかります。

この傾向は、男女別並びに年代別にみた場合も同じことが言えます。

問4 問1で「わからない」と答えた方に 合併についてわからないと思う理由は何ですか。(2つまで選択可)

		回答数	構成比
ア	判断のための情報が少なく、現時点では判断ができないから。	554	35.6%
イ	1市2町の合併以外の枠組みで進めてほしいから。	139	8.9%
ウ	高齢者より若い方の問題と思うから。	288	18.5%
エ	合併してもしなくてもどちらでもよいから。	311	20.0%
オ	興味や関心がないから。	205	13.2%
カ	その他(具体的に：)	57	3.7%
	合計	1,554	100.0%

(表3)わからない理由



(図8)合併の賛否がわからない理由

「うから」と続きます。この傾向は、男女別にみた場合も同じことが言えます。

年代別に見た場合、七〇歳以上を除く全ての年代層において、合併に対する情報の少なさを指摘する声もつと多い割合を示しています。このことは、若い年代層ほど高い割合を示しており、三〇歳代及び四〇歳代の年代層で、全体の過半数を占める人がこのことを理由に、合併の賛否に対する判断をしかねている状態がうかがえます。

二〇歳代以下の年代層に、合併への興味や関心が薄い人が多くなる傾向があるようです。

(表3・図8)

朝日町のアンケートの方法と集計結果のあらまし

- 調査期間 平成16年3月8日～3月22日
- 調査対象 昭和60年4月1日以前に生まれた方(満18歳以上)で、平成16年2月1日現在、住民登録をしている方
- 調査対象者数 7,600人
- 回答者数 6,580人(回答率 86.6%)
- 有効回答者数 6,469人(有効回答率 98.3%)
白紙等 111件

6. 性別毎及び年代別毎の回答率

性別	男	女
81.3%	77.8%	
年齢別	18歳～29歳	77.5%
30歳～39歳	86.3%	
40歳～49歳	88.6%	
50歳～59歳	91.3%	
60歳～69歳	91.2%	
70歳以上	77.6%	

西川町の結果

合併に対する住民の意識を把握しようと、任意合併協議会を構成している西川町でも、朝日町より一週間ほど早く住民アンケートを実施しています。

その結果を見てみると、「合併に反対」を選択した人が70.4%で、「合併に賛成」を選択した人の27.8%を大きく上回っています。このことは、全ての年代層において共通に言えること



(図9)西川町民の年代別合併の賛否

とで、朝日町と同じように全ての年代層において「反対」が「賛成」を上回る結果となりました。

西川町の場合、賛成か反対かの二者択一の選択肢だったため、「わからない」の選択肢があった朝日町と単純に数値を比較することはできませんが、「反対」の人の割合を朝日町と比較してみると、西川町の方が14.6ポイント高いことがわかります。

- 調査期間 平成16年3月1日～3月15日
- 調査対象 平成15年4月1日現在で満18歳以上の全町民
- 調査対象者数 6,151人
- 回答者数 5,859人(回答率 95.3%)
- 有効回答者数 5,790人(有効回答率 94.1%)
白紙等 69件

合併に「賛成」「反対」「わからない」 選択者別

市町村合併に対するその他の意見

合併に賛成の人の意見

●高齢化と過疎化が進んでいる現況では、市町村合併は地域社会の発展や住民サービスの向上のためにも賛成です。

●いずれにしても過疎が進むのであれば、これからの若い人のために、今合併しておいた方がよいのではないのでしょうか。もし今回合併しなければ、どこの市と対等に合併できるのでしようか。吸収合併になってしまうことが心配です。

●現在町議や職員が多すぎると思うので、合併後削減されることを希望します。また私は子育て中ですが、他市町と制度の違いが多くなり、非常に不満です。保育園の時間、料金、予防接種料金など。合併して平等にしてほしいです。

●財政悪化が予想以上に進み、打開策がみられないままサービス低下へと進むことが心配です。合併は結婚と同様、タイミングをはずせば相手が同じ条件をのんでくれるとは限りません。

●合併問題は単に目先の問題で

はないと思います。十年後、三十年後、五十年後、百年後の子ども、孫、ひ孫の代まで将来を見据えた問題であり、合併は必ずと考えます。

●朝日町が将来自立できるかどうかは、産業の発展と人口の増加にかかっていると思います。この二点がともに期待できない以上、自立は不可能に近いものと思います。特に少子化が進み、高齢者の割合が高くなり、若者は町外に出ていく傾向にあるので、生産人口は減少していくこととでしょう。したがって町税も減少し、国からの交付税も削減されれば、自立は不可能だと思っています。

●今後、医療、介護、保健などの経費が増大することははっきりしています。国の交付税や人口も減少して、経費が増大すれば財政的にどうにもならなくなることははっきりしています。今回の合併特例法による国の財政支援がある今、合併すべきだと思います。

●合併問題は単に目先の問題で

●国が法律で決めて進めている合併です。合併は早いか遅いかの違いだと思います。そして今は、車社会です。そしてインターネット等の情報化社会です。合併により過疎化が進んだ五十年前と大きく変わっており、やり方によってはそう過疎も進まないのではないかと思います。

●合併による行政職員の質の向上と生活の広域化による町民の活性化を期待しています。地域の歴史、文化、伝統というものは、町が大きければ失われるも

合併に反対の人の意見

●合併することで、朝日町にとってのメリットは何かあるのでしょうか。全くないと思います。更に過疎化が進むばかりです。全国には、小さな町村でも自立しているところもあれば、合併してはいないところもあれば、合併してはいいところもあれば、合併しては悪いところもある。合併するかどうか、簡単に合併すると決めないでほしいです。

●中心部だけが繁栄し、小さな集落などは忘れられ、行政サービスなどは後回しにされる危険性があるように思います。若年

のではなく、小さければ守られるものでもなく、大小にかかわらず住民の熱意や意思に左右されるものだと思います。また、きめ細かなサービスも職員の質なくしては得られないものだと思います。合併してもこの朝日町に住むことに喜びを感じ誇りに思えるかが重要なことです。

●合併により、今まで朝日町が守ってきた文化や伝統といった大切なものが、失われてしまいうようなので反対です。

●合併については大賛成です。ただし、合併特例債の全額利用は反対です。財政が苦しいため合併するのに、これ以上借金を増やすのはどう考えてもおかしいと思います。適正な運営を期待します。

●合併により、今まで朝日町が守ってきた文化や伝統といった大切なものが、失われてしまいうようなので反対です。

●自立を選んで、いずれは財政の破綻が生じます。住民、地域全体が惨めにあります。そうなるからでは遅いのです。

●朝日町議員や農業委員の数が減り、また町職員の数が減ることと、住民の意見が行政に反映されず、十分な対応が不可能になる恐れがあるので反対です。

●層は中心部に住み、朝日、西川町は中高年層だけが残りほしなにか、危惧されます。朝日町独自の行政運営を模索するべきだと思います。

●朝日町議員や農業委員の数が減り、また町職員の数が減ることと、住民の意見が行政に反映されず、十分な対応が不可能になる恐れがあるので反対です。

●町財政も厳しいでしょうが、人減らし、無駄を減らして町民全体で町を盛りたてて行けば、より良い朝日町になれると思います。今はじっと耐える時期。厳しい財政を創意工夫で乗り越えてこそ、幸せな町づくりがで

●合併について、座談会の実施や広報紙で流しているとか言われますが、一回、二回位でこん

町民アンケート調査から 反対が過半数を占める結果に

わからない人の意見

な重大な事を簡単に決められる訳がありません。納得して話し合いが終わった訳でもないし、一般町民にとって、それ程合併問題について十分な認識と話し合いが行なわれているとは、とても思えません。もともと、住民本意の行政を望みます。

●市町村合併は、お金以外に何を目的とするものか分かりません。合併により、町が大きくなると各地区など隅々まで行政の手が届かなくなる可能性もでてきます。やはり朝日町独自で町の活性化をはかり過疎化を止め、今後の発展を町民全員で力を入

れていく必要があります。●今でも過疎地なのに、これから合併されたら、除雪関係とか医療関係ですごく困るところが

出てくると思います。良い面もあるとは思いますが、できるなら今まで通りの朝日町でいたい

●十代、二十代である私たちが、この市町村合併について一番真剣に取り組んで行かねばならないことはよく分かります。でも、「興味、関心がない」人が実際に多いのが現状です。合併によるメリットのアピール、デメリットへの理解を、私たち世代にも簡単に情報が入るようにしてもらえば、関心を持つ人が増えるのではないのでしょうか。●市町村合併について詳しい情報が入ってこないで、関心をもてないです。座談会が事前に行われたようですが、時間帯が早く仕事で参加することができませんでした。もう少し時間と曜日を考えてほしかったです。市町村合併をおこなった場合、今の朝日町にとってどのようなことがプラスになり、マイナスになるのか詳しく知りたいです。それも分からないうちから「賛成か反対か」を聞かれても何も言えません。●これからの町運営に欠かすことができない若い人の声を反映してほしいと思います。

●合併座談会の資料、説明だけでは、町の方針が分かりません。もっと町の方針を明確にするべきだと思えます。町民は迷っています。●財政的に合併しなければならぬことはよく分かります。でも合併するにあたり、大江町と朝日町の合併、山形市との合併等いろいろ考えがあると思うのですが、今の枠組みしかないのでしょうか。山形市は県都として近代化を進めています。教育、産業、商業などどれをとっても寒河江とは格段の違いがあります。一方、現在の朝日町にはすぐれた資源があります。水と空気と未開発の連山こうした資源は近代化を進める上で山形市はともほほしいと思えます。できれば大江町も含めたものであればよいのではないかと思います。今は車の時代です。山形まで二十分です。遠い山形は昔のこと。遠いのは人間の心です。山形に向かつて進みましょう。●大江町もいっしょでなければ朝日町が飛び地のようで、なん

かおかしいと思います。●合併してしまつたら朝日町の町名が消えてしまうのはいやですが、その先の事を考えた時に小さな市町村は、財政的に厳しくなっているのではないかと、う心配もあるので、気持ち的に複雑です。合併したら、しなかつたらの状況が分からないので判断しにくいです。●金額の比較のみが先ばしついで納得できません。座談会も一度きりだけでなく、何度も回数を重ねて、もっと話し合うべきだと思えます。●時代の流れと町の現況からして、合併もやむを得ないと思いますが、西村山が一体となった合併で進まない、いろいろな不便や不安があります。しかし、現時点では難しいのでしょうか。●合併に関する座談会の出席状況を見ましたが、全体で59%という結果に住民の考え方が表れているのではと感じました。また、朝日町には歴史や伝統といった個性が沢山あります。合併して寒河江市や西川町の方々朝日町の良さがわかるでしょうか。もう少し具体的に、若い人達にも分かりやすい情報を提供していただきたいと思えます。●財政の面で合併を考えるならば、議員、職員の給料を下げればよいのではないのでしょうか。一般企業では不景気のため、賃

金カット、人員削減などよく聞かれるが役所関連ではそういうことは聞かれませんが、金がないならば、ないなりに余剰人員をなくすか、賃金を減らすかして対応しないのですか。合併の話も良いのですが、このような所をしっかりとやってほしいと思えます。●合併問題について、いろいろな人から話をききますが、賛成の人は合併の成果を大きく話し、反対の人は合併のリスクを話します。どちらもある程度理解できますが、どちらが本当なのかあるいは、どちらも本当なのか、分かりません。



アンケートの集計作業風景
(3月23日/開発センターホール)

施政方針

新しい朝日町のかたち

化している現状です。

このような中で政府は、地方自治体に関する「国から地方へ」といった基本的な考えに沿って、「市町村合併のさらなる推進」と「三位一体の改革」を強力に推進しています。

特に新年度予算からスタートした「三位一体の改革」とりわけ、地方交付税の大幅な削減により、各地方自治体の財政状況は深刻な事態となっております。

快適な生活環境の向上と支援

豊かな自然と調和した「安全と安心」そして「便利で快適」な暮らしは、町民生活の基本です。少子高齢社会を迎えた今日、豊かな自然との共存を営むには、安全で快適な住環境の整備を進めること。そして、ゴミや廃棄物の抑制とリサイクルにより、さらに生活環境を高めていかなければなりません。

そのために、今年度も**合併処理浄化槽の設置を推進**していくとともに、家庭ゴミの収集についても町民からの要望が多い「燃やせるゴミ」の**回収回数を増やしていく**考えです。

また、安全・安心な暮らしを維持する

ため、防火水槽の設置を始め消防ポンプ自動車の更新、交通安全施設や道路網などの交通環境の整備を図っていきます。

次世代を担う人材の育成と支援

朝日町発展の源泉は「町民の力」であり、特に次世代を担う若者のパワーだと考えています。したがって、次世代を担う人材の育成は、朝日町の未来への投資であり、教育分野におけるIT環境や多様化する保育ニーズへの積極的な対応など、教育の充実や子育て環境の整備に力を注いでいくことが必要不可欠です。

具体策として、**学童保育**を立ち上げます。昼間保護者のいない家庭などの小学校低学年の児童を受け入れる、遊びを主とする「放課後児童クラブ」の開設です。さらに、延長保育や未満児保育など多様化する保育ニーズへ対応するため、**統合保育園の整備に着手**したい考えです。

現保育園の施設の老朽化（さゆり保育園は昭和五十年、ふたば保育園が昭和五十四年、わかば保育園については昭和四十七年に建設）が進んできています。より安全で安心できる保育環境の整備を図っていきます。

豊かさを実現する産業起業と支援

地方においては「経済の回復」などは全く感じられない、大変厳しい現況です。朝日町においても同様であり、誘致企業の一部は規模の縮小や閉鎖を余儀なくされたり、人員削減をせざるを得ない状況となり、このことが税収の落ち込みをはじめとする町全体の経済社会に深刻な影響を与えています。また、りんごを中心とする農産物についても、狂牛病いわゆるBSE問題や鳥インフルエンザなど、食の安全指向からくる農作物全体の消費と価格の低迷、産地間競争の激化など、厳しい環境に置かれています。

さらに、このような町内の経済情勢によつて、商業界での売上高が年々減少しており憂慮しているところ です。

景気は緩やかな回復基調にあるとはいふものの、我が国の経済情勢は、やはり全体的に厳しい状態が続いています。雇用情勢を見ても、失業率や新卒者の就職内定率は都会では改善しつつありますが、地方においては依然として厳しい状況が続いています。また、個人消費を見ても、一部家電製品では売上げが伸びていますが、衣料や食料品などは低迷しています。そんな中、国の財政状況は、バブル崩壊後に総じて景気回復優先の財政運営を行ってきた結果、平成十五年度末の公債（借入金及びその利子）残高が約四百五十九兆円に達するなど、世界先進国の中でも最悪の水準にあります。さらに、税収の伸びが期待できない中で、急速な少子高齢化に伴う経費の増大や公債費の増大等により、歳入歳出構造は益々硬直





このような状況を踏まえ、町の基幹産業である「りんご」を中心とした果樹産業振興と、日本一りんご銘柄を確立するために、大苗育成事業や統一共選「シナノスイート」ブランドの確立、果実消費拡大の宣伝活動を積極的に進め、農家所得の向上に努めます。また、ハウス等を活用した園芸作物の振興にも努めます。

その他、地域産業経済の活性化を図ることが不可欠であるため、金融対策事業の充実として、信用保証協会との保証料補給契約項目の拡充を図ります。具体的には、近代化資金における設備近代化等及びセーフティネット保証の経営安定資金関係等まで拡大するものです。

新たな事業としては、平成十六年十一月に中山間地域農村活性化総合整備事業によります堆肥センターが完成する予定ですので、堆肥の利活用と有機農業の推進を図るためバイオマス利活用推進事業

を立ち上げます。

また、農業研究所ではりんごの花を活用した「りんごの花茶」の商品化を進めており、これらを活用した新たな特産品開発や高付加価値型産業を農・工・商・観一体となって進めていく考えです。

行財政改革の加速化 と市町村合併

これまで道路改良工事などの社会資本整備を積極的に進めてきた結果、平成十五年度末の町債（借入金）残高は六十六億九千万円程度となり、平成十二年度をピークに四年連続して減少しています。

これにより、実質ベースの償還額では平成十五年度がピークとなり、平成十六年度以降減少していくものと思われま

す。人件費につきましても、国の方針や職員数の削減などにより四年連続して減少し、平成十六年度では十二億二千八百万円程度となっています。

しかし、各性質別には抑制されていますが、全体予算で見ると大変厳しい状況になっていきます。当初予算における構成比率は、人件費28・6%、公債費は23・8%と依然として高い状況にあり、合計で52・4%と財政の硬直化には変わりが

なく極めて厳しい状況と考えています。

一方、歳入の根幹をなす地方交付税の見直しに関しては、地方財政計画では地方単独事業の縮減等により歳出面での徹底した見直し・抑制が図られ、通常収支に係る財源不足が縮小した結果、地方交付税総額が前年度に比べ6・5%の減、地方交付税の振替措置である臨時財政対策債が28・6%の減、これら二つを合わせると12・0%程度の減となります。

このような地方交付税等の大幅な減少はかつてなかったことであり、非常に厳しい内容となっています。特に町の場合は、地方交付税等に依存する割合が高いことから、今後の財政運営には十分留意する必要がありますと考えています。

また、町税につきましても個人町民税の伸びが見込めず、今後とも一般財源は大幅に落ち込むことが予想されます。

このように、国の改革スピードは予想以上に早く、地方交付税の削減に相当する歳入の削減が間に合わず、歳入不足に陥っている状況です。

このような厳しい「三位一体の改革」を乗り切り展望を開いていくためには、新しい「朝日町のかたち」をしっかりと持ち、改革のスピードを加速させる必要があります。

具体的には、**新年度から三年間を期間**

とする新行財政改革大綱を策定し、効率的な行財政システムの確立に努めます。行政評価を踏まえた、施策の「選択と集中」を徹底することで着実に成果を挙げ、町民と行政の協働による町づくり、そして持続可能な財政運営を進めていく考えです。

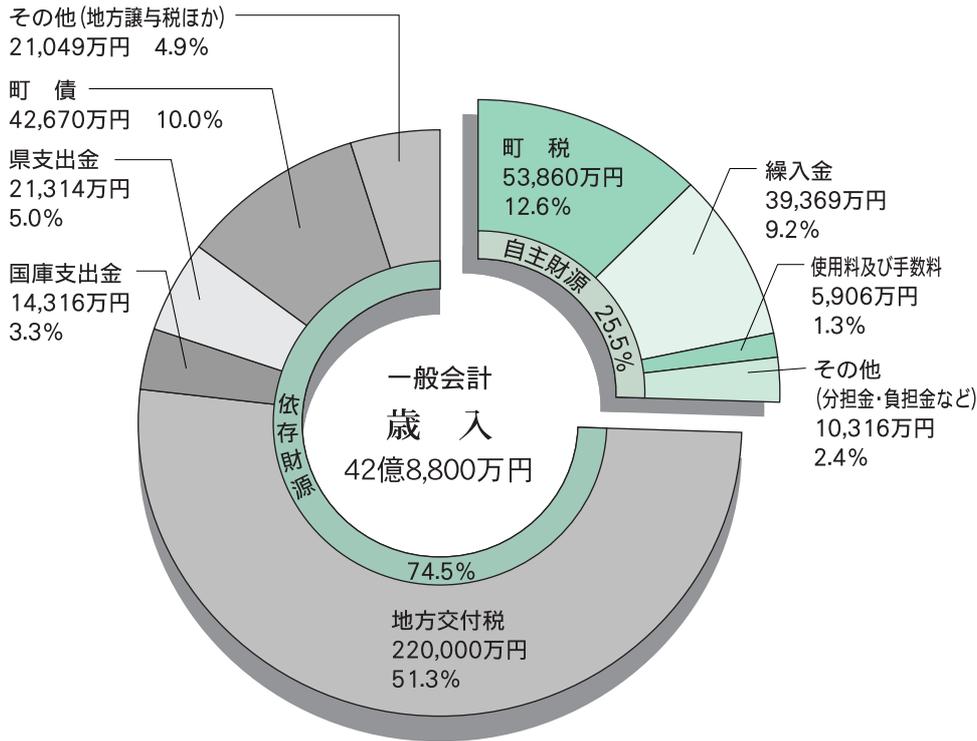
市町村合併については、合併に関する町政座談会を町内五十カ所で開催し、町民に説明してきたところです。これを踏まえて、平成十五年四月一日現在で十八歳以上の全町民を対象に、合併に関するアンケート調査を実施し、町民の意向を把握したところであります。

合併の必要性については、これまで同様の考えであります。が、**町民の意向を十分尊重し、議会とよく協議しながら方向性をまとめた**たい考えです。

行財政改革の加速化

平成16年度

42億8,800万円



平成十六年度の当初予算が決まりました。一般会計の総額は四十二億八千八百万円で、昨年度に比べると三・九%、一億七千四百万円減少しました。主な事業は、合併処理浄化槽設置推進事業、緊急地域雇用創出特別交付金事業などです。限られた財源を効率的に配分し、重点事業に集中投入させた予算編成となりました。

<p>●土木費</p> <p>20,243円</p>	<p>●衛生費</p> <p>63,031円</p>	<p>●総務費</p> <p>60,054円</p>	<p>一般会計</p> <p>町民一人あたりでみると</p> <p>474,546円</p>
<p>●消防費</p> <p>27,674円</p>	<p>●農林水産業費</p> <p>29,808円</p>	<p>●民生費</p> <p>88,954円</p>	

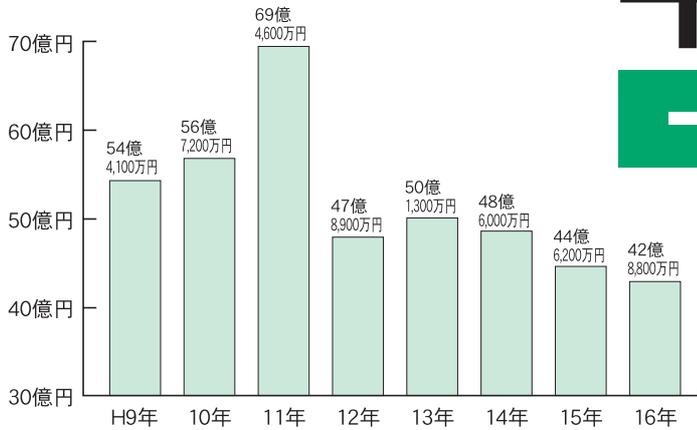
(平成16年度4月1日の人口9,036人で算出)



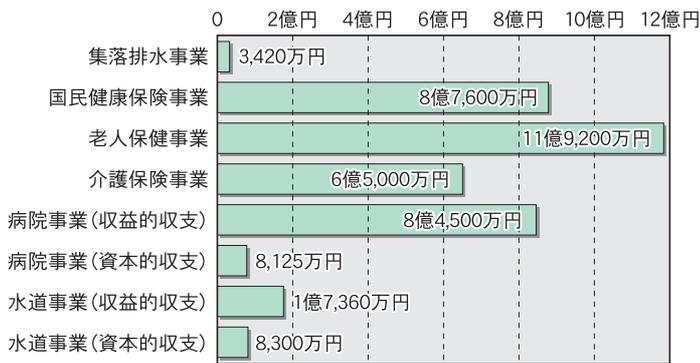
平成16年度

一般会計当初予算

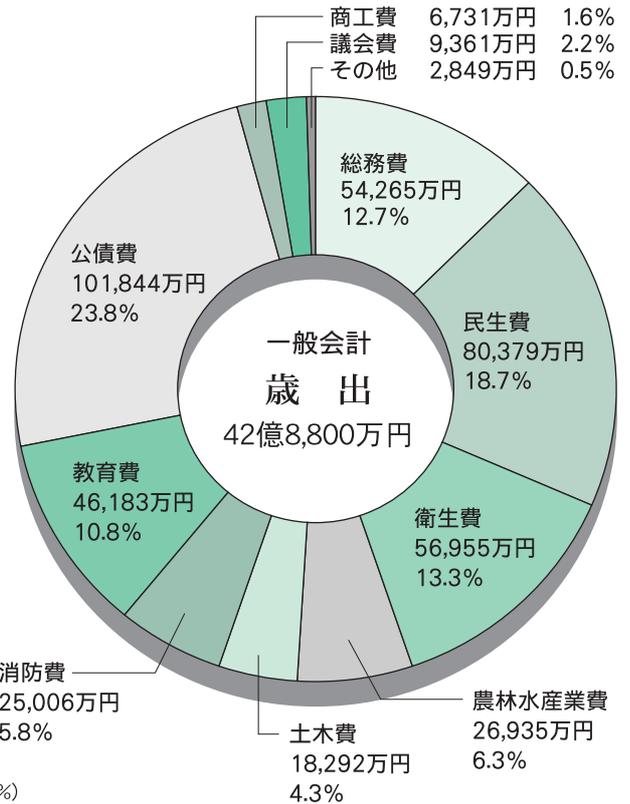
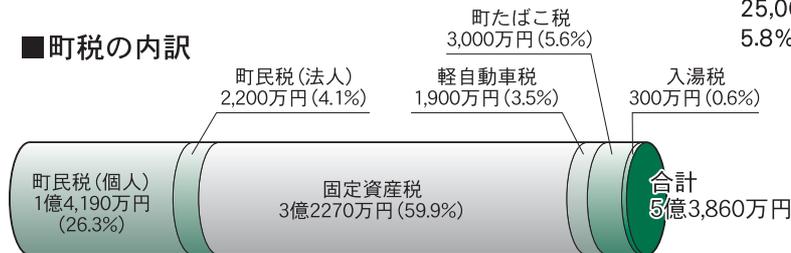
■一般会計当初予算の推移



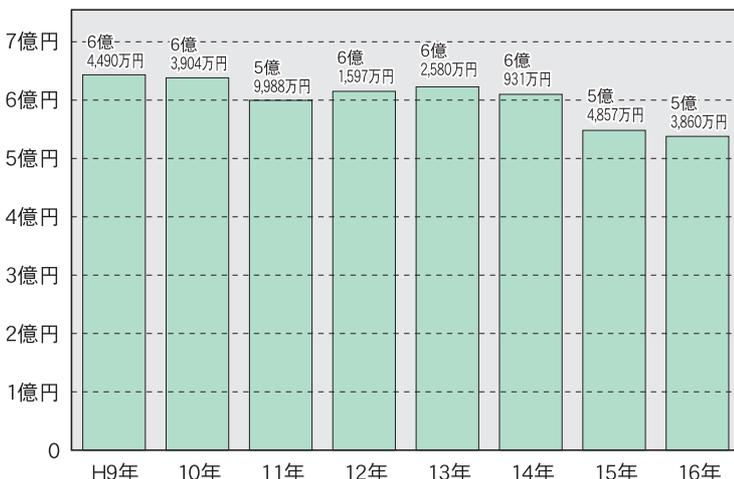
■特別会計・企業会計当初予算



■町税の内訳



■町税当初予算の推移



生活環境を整え 住みやすい町づくり

(生活環境分野)



- 合併処理浄化槽設置推進事業** **9,732万円**
奨励金の上乗せや融資制度が今年度をもって終了することから、今年度の目標設置数は100基で、補助金8,257万円、奨励金750万円を計上したほか、切替補助金、放流ポンプ槽設置補助、資金利子補給なども予算化しました。【建設課】
- 水道老朽管等更新事業** **6,650万円**
宮宿と和合地内の水道老朽管更新と、立木地内の計装設備更新工事を実施します。工事の開始は6月頃を予定しています。【水道事業所】
- 消防施設整備事業** **4,330万円**
白倉、高田、大谷七、栗木沢に防火水槽を設置するほか、3分団（大谷）の自動車ポンプ1台を更新する予定です。【税務町民課】
- 町道整備事業** **3,100万円**
町道元宿南線（全長169m）の改良工事を実施します。【建設課】
- その他の主な事業**
 - ・除排雪費 3,870万円
 - ・ごみ収集運搬委託 2,164万円
 - ・町営バス運行費 1,690万円
 - ・町道舗装事業（須ノ瀬線、岩坂線ほか） 800万円
 - ・町道維持補修事業（西町西船渡線） 600万円
 - ・がけ地近隣危険住宅移転事業費 484万円
 - ・子ども会資源ごみ回収助成事業 316万円
 - ・宮宿左沢間路線バス利用拡大事業 200万円
 - ・昼間タクシー運行委託事業 120万円
 - ・交通安全施設整備（カーブミラー設置等） 80万円

楽しい生活の創造と 心ふれあう町づくり

(文化・生涯学習分野) (健康・福祉分野)



- 学童保育事業** **125万円**
小学校低学年等の児童の健全な育成を図る上で、指導を必要とする児童を対象に、放課後、土曜日、夏休み等の長期休暇中に適切な生活の場を提供します。【健康福祉課】
- 保育園建設事業** **250万円**
平成17年度の統合保育園の建設に向けた調査を実施します。【健康福祉課】
- 寺子屋事業** **27万円**
お寺での厳しい生活を体験し新たな自分を発見する事業等、小学生を対象にした4講座を実施します。【生涯学習課】
- 朝日町史（下巻）製作費** **367万円**
町史編さん編集員を中心に、朝日町史（下巻）の執筆を進めています。【生涯学習課】
- 介護保険特別給付事業** **343万円**
介護保険料を財源とした特別給付として、紙おむつ購入費の支給を行います。【健康福祉課】
- アップル町民駅伝競走大会** **30万円**
町政施行50周年を記念して、県内の有力女子ランナーを招待した大会を実施します。【生涯学習課】
- その他の主な事業**
 - ・老人保健（高額医療費）事業 850万円
 - ・小学校パソコン更新事業 590万円
 - ・各種予防接種事業 567万円
 - ・いきいきデイサービス事業 230万円
 - ・図書館事業 359万円
 - ・子育て支援事業 93万円

新しい朝日町のかたち

町民と行政の協働による町づくり

(地域・自治分野)



- 地理情報システム整備事業 1,807万円
平成14年度で現地調査が終了した地籍調査結果を広く活用するため、電算システムを導入します。
【税務町民課】
- 町政施行50周年記念事業 400万円
朝日町誕生50周年を祝い、記念式典のほか各種の記念事業に取り組みます。
【総務課】
- 志藤六郎村おこし補助金 300万円
志藤六郎村おこし基金を活用した事業。まちの誇り（シンボル）づくりや地域の自治活動、特産品などの開発に対して補助します。
【企画課】
- コミュニティ助成事業 250万円
コミュニティ助成（宝くじ助成）を受けて、宮宿小豊年太鼓（大小合わせて8面）を増設します。
【企画課】
- 目標管理・組織開発推進業務 120万円
町民と行政の協働によるまちづくりに向けて、総合計画の「まちの経営方針」を実現させ、わかりやすくして新しい朝日町行政経営の仕組みをつくります。そのために、職員による「目標による管理（業務棚卸法）の行政への応用」や「TQM体制づくり」の研修会、具体的な試行の取り組みを実施します。
【企画課】
- その他の主な事業
 - ・広報事業 309万円
 - ・エコミュージアムルーム管理運営費 210万円
 - ・若者交流事業 100万円
 - ・海の子山の子交流事業 11万円

産業の振興で活力ある町づくり

(産業・経済分野)



- 中山間地域農村活性化総合整備事業 2,888万円
県営事業として、良質な堆肥を供給し土づくりを推進するための堆肥センターを鹿路地内に建設します。
【産業振興課】
- 緊急地域雇用創出特別交付金事業 820万円
雇用相談窓口を設けるとともに、雇用の場を提供するために各種の対策事業を実施します。
【産業振興課】
- 園芸銘柄産地育成事業 800万円
アスパラガスハウス5棟設置への補助並びに果樹改植への補助を行います。
【産業振興課】
- 商工業緊急活性化利子補給事業 247万円
最高500万円までの貸付額に対する利子の半額を補給し、商工業の活性化を図ります。
【産業振興課】
- バイオマス利活用推進事業 87万円
堆肥の利活用を推進するため条件整備を行います。今年度は、80箇所の土壌分析など、調査費用を計上しました。
【産業振興課】
- その他の主な事業
 - ・中山間地域等直接支払事業 3,390万円
 - ・森林整備地域活動支援交付金 1,220万円
 - ・木材製品利用住宅建築奨励補助事業 400万円
 - ・新商品「りんごの花茶」開発事業 296万円
 - ・八ツ沼水環境整備事業 261万円
 - ・りんご銘柄産地確立対策事業 50万円
 - ・ダチョウ振興支援事業（飼育設備費助成） 30万円
 - ・地産地消推進事業 20万円
 - ・安全安心農作物緊急対策事業 80万円

町職員 人事

四月一日付けで町職員の人事異動が行われました。行財政改革の一層の推進を柱にし、少子高齢化への対応や次世代を担う人材の育成、産業の起業と支援など、町が抱える重要課題への対応を考慮した内容となっております。

組織機構の見直しにより、これまでの「農林課」と「商工観光課」を統合し「産業振興課」が新設されました。また、町民との協働のまちづくりを進めるための「協働推進係」と地域情報化を推進するための「地域情報係」が企画課に、税の口座振替制への移行に伴う「収納係」が税務町民課に、地域間交流を推進するための「観光交流係」が産業振興課にそれぞれ設置されます。安心安全な町民生活を確保する総合的な危機管理の窓口として総務課に「危機管理担当」が配置されたほか、これまで企画課「定住係」で実施してきた定住対策事業のうち、住宅団地業務が建設課に、その他の業務が「協働推進係」と「子育て支援係」に移管され、「定住係」は廃止されます。

このような組織機構の見直しにより行財政運営のスリム化が図られ、職員数も対前年度当初比で五人減の百八十九人となり、人的コストの削減に配慮した内容となっております。今年度の職員体制は次のとおりです。



三役

町長 清野 隆
 助役 白井 淑浩
 教育長 原 喜内

総務課



課長 長岡 重利
 課長補佐兼危機管理担当 熊谷 貞則

庶務係

主査兼係長 若月加代子
 主事 佐竹 秀文

文書研修係

主査兼係長 鈴木 高敏
 主任 阿部由美子
 主事 渡辺 政一

財政係

主査兼係長 近衛 智之
 主事 近衛 智之

企画課



課長 富樫 清志
 課長補佐 鈴木 康宏

協働推進係

主査兼係長 阿部喜栄治
 主任 阿部 忠之
 主任 伊藤 博美
 主任 早坂 健一

地域情報係

主査兼係長 清野 雅英
 主任 鈴木 康宏

広域行政担当

課長補佐 阿部 容一
 主事 阿部 容一

税務町民課



税務課長 渡邊 吉助
 町民課長 柴田 忠
 課長補佐 菅井 和広
 課長補佐 菅井 和広

町民税係

係長 井上智恵美
 主任 齊藤ひとみ
 主任 阿部 正文
 主事 熊谷 忍

固定資産税係

係長 松田 勝美
 主任 菊地早百合
 主事 佐久間 淳

収納係

係長(兼) 菅井 和広
 主任 柴田 智子
 主任 鈴木 滝子
 主任 鈴木 直美
 主任 阿部 正樹

地籍調査係

主査兼係長 長岡 利光
 主査兼係長 柴田 智子
 主任 鈴木 滝子
 主任 鈴木 直美
 主任 阿部 正樹

戸籍年金係

主査兼係長 柴田 智子
 主任 鈴木 滝子
 主任 鈴木 直美
 主任 阿部 正樹

防災係

主査兼係長 佐竹 長司
 主事 伊藤 淳
 交通安全指導専門員(嘱) 鈴木 明美

生活環境係

主査兼係長 今野 幸昭
 主事 伊藤 由佳

健康福祉課



課長 最上俊一郎
 課長補佐 小野 隆弘
 課長補佐 阿部 則雄

福祉係

主査兼係長 白田 久寿
 主任 高取 照子
 主任 畑 英俊
 主任 木村 朋恵
 主任 長岡 季代

保険給付係

係長(兼) 阿部 則雄
 主任 高取のぶ子
 主任 伊藤 真一
 主事 藤沢 美子

子育て支援係

主査兼係長 阿部 弘美
 主事 海野 淳

健康推進係

主査兼係長 今野 智子
 主任(保健師) 加藤 静代
 主任(保健師) 佐竹 文子
 管理栄養士 村山 智美

在宅介護支援センター

係長 村山 敏子
 保健師 鈴木 律

さゆり保育園

園長 海野優恵子
 主任(保育士) 松田 敬子
 主任(保育士) 菊地 千代
 保育士 佐藤 弘美
 保育士 峯田 幸子

事業係

主査兼係長 大谷 武一
 主任 長岡 勉
 主任 伊藤 雅樹

農政係

主査兼係長 川口 幸男
 主任 阿部 富子
 主任 佐藤 修
 主任 海野 裕喜

商工労政係

係長(兼) 小川 澄夫

ふたば保育園

園長 高沢きく子
 子育て支援センター係長 大井 恵子
 主任(保育士) 小川美江子
 主任(保育士) 熊谷三枝子
 調理師 熊谷 由香

わかば保育園

園長 阿部 幸子
 主任(保育士) 白田 清子
 主任(保育士) 菅井 睦子
 保育士 本間 真紀
 調理師 武田クニ子

産業振興課

課長 池田 伸一
 課長補佐 小川 澄夫
 課長補佐 長岡 茂
 課長補佐 佐藤 敏行

主事 小野 康仁

●**観光交流係**
係長(兼) 佐藤 敏行
主事 白田 征治

●**農業研究所**
☎(67) 2890
所長(兼) 池田 伸一
副所長(兼) 長岡 茂
主任研究員 三浦 浩一

●**農業委員会**
☎(67) 3307
事務局長(兼) 池田 伸一
局長補佐 佐藤 伸寛

●**農地調整係**
係長(兼) 佐藤 伸寛
主任 佐竹 政子

●**建設課**
☎(67) 2115
課長 若月 淳一


課長補佐 鈴木 清
課長補佐 堀 幸雄

●**維持係**
係長(兼) 堀 幸雄
主任 阿部かつゑ
技師 海藤 繁幸

●**工務係**
係長(兼) 鈴木 清
主任 鈴木 勝

●**車両管理係**
係長 武田 光雄

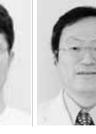
●**都市計画係**
係長 鈴木 俊治
主事補 長岡 昭博

●**水道事業所**
☎(67) 3570
所長(兼) 若月 淳一
所長補佐 清野 正幸

●**業務係**
係長(兼) 清野 正幸
技術士 今井 一成

●**工務係**
係長 長岡 浩利
主任 鈴木 良浩

●**町立病院**
☎(67) 2125
院長(内科) 小林 達
副院長(外科) 桜井 文明
副院長(内科) 高橋 潤


医 長(内科) 加藤 幸恵


事務局長 松尾 正二
総看護師長 長岡 浩子

●**外来**
看護師長 佐藤久美子
主任(看護師) 児珠はつゑ
主任(看護師) 若月 裕美
看護師 鈴木美保子
看護師 大竹 由理

看護師 野口小夜子
准看護師 松田タツ子
准看護師 鈴木 弘子
准看護師 長岡ひとみ

●**病棟**
看護師長 鈴木恵美子
主任(看護師) 安藤由紀子
主任(看護師) 白川由美香
看護師 鈴木 幸代
看護師 鈴木 正子
看護師 大江 一子
看護師 布施 智子
看護師 渡辺 梓
看護師 長岡 千恵
看護師 遠藤 美香
看護師 榎 友子
看護師 小野 晶子
看護師 大泉かおり
看護師 鈴木 史織
看護師 内藤 清華
看護師 舟山 舞
准看護師 今井さち子

●**在宅医療相談室**
主任(看護師) 佐藤みどり
看護師 瀬尾美智子
看護師 関根 愛

●**薬局**
薬剤師 今井 聡美

●**X線室**
技師長 葛浦 潤司
技師 梅津 睦

●**療法室**
作業療法士 清野 敏秀
理学療法士 高橋 陽子
理学療法士 伊藤 彩

●**検査室**
技師長 村山 陽子
技師 岡崎まゆみ

●**給食室**
管理栄養士 成原 千枝
調理師 熊谷 尚子
調理師 阿部 玲子
調理師 鈴木 和子

●**事務室**
事務局長補佐 安藤 一夫

●**庶務係**
係長(兼) 安藤 一夫

●**医事係**
係長 花山 護

●**議世事務局**
☎(67) 3306
事務局長 鈴木 千良

●**庶務係**
局長補佐 長岡 信之
係長(兼) 長岡 信之

●**収入役室**
☎(67) 3301
室長 清野 直治
主任 斎藤 文子

●**社会福祉協議会**
☎(67) 2465
事務局長 阿部 和夫

●**教委 管理課**
☎(67) 3302
課長 阿部 忠男

主幹 熊谷 昌彦
課長補佐 成原 孝一
課長補佐 長岡 典巳

●**庶務係**
係長(兼) 長岡 典巳
主事 阿部 祐子

●**学校教育係**
係長(兼) 成原 孝一
外国語指導助手 ダグラス・アニータ

●**教育研究所**
事務局長(兼) 熊谷 昌彦

●**西五百川小学校**
用務員 阿部 歩
調理師 佐竹 幾子
調理師 渡辺真由美

●**宮宿小学校**
用務員 滝川 芳巳
調理師 遠藤 房子
調理師 佐竹 敏子

●**和合小学校**
用務員 鈴木 敏一
調理師 滝川 久恵

●**大谷小学校**
用務員 長岡 元広
調理師 安藤 孝子
調理師 白田 幸子

●**朝日中学校**
用務員 渡辺 忍

●**教委 生涯学習課**
☎(67) 2118
課長 宮本 建一

●**生涯学習係**
主査兼係長 橋間 友則
主任 小関 典子

●**業務員**
近衛美智永

●**社会教育係**
主査兼係長 佐竹 壽美
主任 遠藤 憲一
主任 高橋さだ子
主事 岡崎 国宏

●**体育振興係**
係長 菊地 洋一
主事 安達 和史

●**西部公民館**
☎(67) 2208
主査兼係長 花山 芳文
業務員 白田 京子

●**北部公民館**
☎(68) 2111
主査兼係長 西田 和之
業務員 和田みよし

●**新規採用者**(四月一日付)
内科医師 加藤 幸恵
看護師 (山形市) 内藤 清華
看護師 (寒河江市) 舟山 舞

●**退職者**(三月三十一日付)
商工観光課長 菅井 博

●**税務町民課主任** 大沼八代子

●**生涯学習課業務員** 小林たみゑ

●**町立病院准看護師** 佐藤マサ子

定例議会

3月定例議会が9日から9日間の日程で開かれ、歳入歳出それぞれから3,550万円を減額し、平成15年度予算総額46億1,340万円とする一般会計補正予算など36議案が審議、可決されました。

議案の採決事項は次のとおりです。



①平成十五年度朝日町一般会計補正予算について、歳入歳出それぞれから三千五百五十万円を減額し、予算総額四十六億千三百四十万円とする。【原案可決】

②平成十五年度朝日町集落排水事業特別会計補正予算について、

- ③平成十五年度朝日町国民健康保険特別会計補正予算について、歳入歳出それぞれに千七十八万一千円を追加し、予算総額九億五千七百十八万一千円とする。【原案可決】
- ④平成十五年度朝日町住宅団地造成事業特別会計補正予算について、歳入歳出それぞれに三十五万円を追加し、予算総額五百四十五万円とする。【原案可決】
- ⑤平成十五年度朝日町病院事業会計補正予算について、収益的収入のうち医業収益から一千三百五十万円を減額、一方、医業外収益に三千八百五十万円を追加し、予算総額十億二千三百万円とする。また、資本的収入から三千八百七十二万五千円を減額し、予算総額八百二十七万五千円に、同支出に百十万円を追加し、予算総額五千三百七十万円とする。【原案可決】
- ⑥国の法律が公布、施行されたことに伴う朝日町個人情報保護条例の設定について【原案可決】
- ⑦役場組織機構の見直しを行い、一部課の統合を図るため、朝日町課設置条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑧各職域の実態に即した職員定数の見直しと組織機構を見直すため、朝日町職員定数条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑨省令の施行に伴う朝日町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑩町長はじめ特別職の給料等を削減するとともに、その他の非常勤特別職の報酬を見直すため、朝日町特別職に属する者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑪教育長の給料を削減するため、朝日町教育長の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑫一般職員の通勤手当の見直しに伴う朝日町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑬用品調達及び管理事務の簡素化を図るため、朝日町用品調達基金の設置管理及び処分に関する条例を廃止する条例の制定について【原案可決】
- ⑭公金口座振替制度の実施に伴う朝日町税条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑮公金口座振替制度の実施に伴う町税の納期の特例に関する条例を廃止する条例の制定について【原案可決】
- ⑯公金口座振替制度の実施に伴う朝日町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑰町の町税等の納期との整合性を図るため、朝日町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑱朝日町体験研修施設の売却処分に伴う同施設の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について【原案可決】
- ⑲使用料の算定基準としている農業委員会の農作業標準小作料の改正に伴う朝日町民農園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について【原案可決】
- ⑳議会に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例に基づき、価格が七百万円を超える朝日町体験研修施設B棟の財産の売却処分について【原案可決】
- ㉑一般会計予算
- ㉒集落排水事業特別会計予算
- ㉓国民健康保険特別会計予算
- ㉔老人保健特別会計予算
- ㉕介護保険特別会計予算
- ㉖病院事業会計予算
- ㉗水道事業会計予算
- ㉘平成十四年度の地籍調査事業の成果に伴う、太郎地内の字の区域及び名称の変更について【原案可決】
- ㉙平成十四年度朝日町各会計予算について【原案可決】
- ㉚平成十四年度の地籍調査事業の成果に伴う、太郎地内の字の区域及び名称の変更について【原案可決】
- ㉛町道路線（朝日線）の見直しによる廃止及び新たな認定について【原案可決】
- ㉜町道路線（大谷南線）の見直しによる廃止及び新たな認定について【原案可決】
- ㉝町道路線（四ノ沢能中線）の認定について【原案可決】
- ㉞町道路線（秋葉山線）の認定について【原案可決】
- ㉟適切な財源保障と地方交付税制度の堅持を求める、国の「三位一体の改革」への意見書の提出について【原案可決】
- ㊱自由貿易協定締結交渉における国内農業に対する十分な配慮を求める意見書の提出について【原案可決】



新たに町道として認定された「四ノ沢能中線(八天橋)」



内科医 加藤幸恵先生 着任

このたびの人事異動で、町立病院の常勤医師（内科担当）として加藤幸恵先生が着任されました。

加藤先生は岩手県出身で、これまで岩手医科大学の麻酔科で3年間、うち1年間は循環器センターで心臓手術の際の麻酔を担当されていました。以前は、岩手県立中央病院で研修医として2年間、多くの科で研修（多科研修）されていたそうです。

スポーツ好きな先生は、「学生時代は勉強の傍らでバドミントンで汗を流していました。冬はスキーもやるので、スキー場（自然観スノーパーク）がある朝日町に着任できてとてもうれしく思います」と、早々とこの町を気に入ってくれた様子。

「地域医療に携わるのは今回が初めて。でも、患者さん方とより身近に接することができるので、その分まで患者さんの期待に応えられるよう努めていきます」と抱負を語ってくれました。

町立病院で院外処方始まる

広報紙でも3回にわたってみなさんにお知らせした町立病院の「院外処方」が4月1日から始まりました。複数の医療機関にかかって薬を処方されても、同じ薬が重複して投与されるのを防ぐことができるほか、薬の待ち時間が短縮されることとなります。近隣の医療機関では、すでに導入済みのところが多く存在します。

外来患者用の玄関先には、院外処方箋を受け付けファックスを送るためのカウンターが設置。多い日で31人の患者さんが、このカウンターを利用したとのこと。

カウンターに常駐する寒河江西村山薬剤師会職員の柏倉真理子さんは、「特にご高齢の方に院外処方を理解なされていない人が多く、戸惑っていらっしゃるようですが、何なりとお聞きください」と優しく話してくれました。



町政報告

総務課▼ 本年は、町制施行50周年にあたる節目の年であり、

今後、実行委員会等においてさらに検討を加え実施していきたいと思っております。

企画課▼ 市町村合併について、任意合併協議会で決定された26の協定項目と、庁舎内の自立調査研究会の報告書、この二つの内容について比較表を作り、町内50会場において、合併に関する町政座談会を開催し、町民に説明をしてきました。これを踏まえて、18歳以上の町民を対象

にした合併に関するアンケートで町民の意向を把握したいと考えています。

税務町民課▼ 生活環境関係ですが、平成16年度よりゴミの収集につきまして、燃やせるゴミの収集を全集落週二回、ビンの収集を月二回から一回に変更することで準備を進めています。

健康福祉課▼ 高齢者世帯が冬期間を安全で安心して生活するための雪対策として、雪下ろしは32世帯、除雪は14世帯から助成申請があり、民生委員等の協力を得ながら随時実施しています。

商工観光課▼ さる二月一日、朝日自然観ロッヂ「しらくら」の玄関前で、屋根からの落雪によりスキー客がケガを負う事故が発生しました。幸いにしてすぐ町立病院にて処置を行い現在快方に向かっているとの報告を受けたところです。今後このような事故がおきないように危険箇所点検と安全対策の指示を行うところとです。

農林課▼ 中山間地域総合整備事業で進めている「堆肥センター」につきましては、「発酵棟」並びに「製品棟・管理棟」の入札は三月中に実施され、融雪後に順次着工される予定です。併せ

て産業廃棄物処理施設設置の事前協議と、管理運営を予定している法人の設立および産業廃棄物処理業の許可申請について準備を進めているところです。

建設課▼ 合併処理浄化槽については、計画基数97基に対し103基の実績となりました。来年度は推進強化期間五カ年の最終年度であり、より一層の推進に努めていきます。

町立病院▼ 四月一日より院外処方を実施しますが、スムーズに移行できるよう万全の態勢で準備を進めているところです。

管理課▼ 一月に文部科学省が進める学校給食に地域生産物を取り入れた「心をはぐくむ給食週間」に取り組み、町内の各小学校とも郷土色豊かな食べ物について学習を深めたところです。学校給食の地産地消については、地元で収穫された季節の旬な食材を取り入れていきたいと考えています。

生涯学習課▼ 創遊館ホール事業につきましては、文翔館移動事業として「ヘンゼルとグレーテル」の公演を開催しました。朝日町では初めての本格的な歌劇であり、グリム童話を題材にしたなじみのある内容で、子どもから大人まで幅広い多くの方々に楽しんでいただきました。



まちの話題



①朝日町高齢者福祉大会



大会に先立ち町民憲章の朗読



会場いっぱいの交通安全講習会の様子

元気に楽しく ねたきりゼロをめざして！

「ねたきりゼロをめざして！」をテーマに町高齢者福祉大会が2月5日、農業団地センターホールで開催されました。長寿クラブにとって年間で最大の行事となるこの大会。町内全地区の長寿クラブ会員536人が集い、賑やかな一日を送りました。

大会行事に先立ち、(財)山形県交通安全協会交通安全活動推進センターの押井邦昭交通安全課長による「交通安全講習会」が行われました。高齢者の事故の例として、横断中に左側からくる車にひかれるケースが多いことなどが紹介されました。また、道路の右側を歩く、この当たり前の約束事がなかなか守れない人

がいることを指摘した上で、「自ら事故に遭遇しないよう常に心がけること。必ず止まって安全を確認することが大切です」と参加者らに注意を促しました。

大会では、町長寿クラブ連合会で永年役員を務められた4人の方、福祉活動等に功績のあった4つのクラブが同会長から表彰されたほか、「プラス5人増強クラブ」や「高加入率クラブ」「加入率100%達成クラブ」合わせて31のクラブが、県老人クラブ連合会長より表彰を受けました。

芸能発表では祝いの舞やカラオケなどが披露され、会場は終始賑やかな雰囲気に包まれていました。

②ふれあい荘の車椅子収納用車両購入に日本財団から助成



在宅介護福祉の充実に一役

「誰もが安心して暮らせる地域社会のお手伝いに」と3月24日、車椅子収納用車両購入費420万円のうち約60%にあたる247万円が、(財)日本船舶振興会(日本財

団)よりふれあい荘へ助成されました。ふれあい荘が当財団から助成を受けるのは、同じ用途の車両で軽自動車が増え2年前に続く2回目となります。軽自動車は狭い所に入って行きやすい利点もありますが、デイサービス利用者の増加に伴い、一度に多くの利用者運べるワンボックスタイプの車両が必要となり、改めて申請していたものです。つかまりやすい部分に朱色で目立つ手摺りが付いているところが内装の特徴。ふれあい荘所有の同車両は全部で10台となりました。

利用するのは主にデイサービスを受けるお年寄りたち。「新しく乗り心地のいい車で、デイサービスを利用するのがより楽しくなりました」と語る利用者みなさん。

無事故を祈願した後、早速デイサービス利用者を迎えに出発していきました。これで、在宅介護福祉の充実が更に図られることとなります。

③中部地区子ども会綱引き大会 西部地区子ども会ダーツ・輪投げ大会



この1本に勝負をかける！ ギャラリーの応援にも力が入る



気軽になんていかないヨ 簡単そうで難しい…

子ども会最後の思い出づくり

3月20日、中部地区子ども会綱引き大会が町民体育館で、西部地区子ども会ダーツ（投げ矢を的にあてるゲーム）・輪投げ大会が健康増進センターで開催されました。卒業式を終わったこの時期、各集落毎の子ども会でお別れ会が実施されるのを受けて、特に中学を卒業する生徒にとっては最後の思い出づくりとなる子ども会活動です。

綱引き大会では、あっさり決まってしまう対戦カードから、なかなか勝負が決まらず制限時間いっぱい

沸きに沸いた町内2会場

費やす力のこもった対戦カードまで様々。周囲で応援する保護者らの声援に応えようと、1本の綱を必死で引き合う姿が印象的でした。

以前は卓球大会を実施していたものが内容を変えて行われているダーツ・輪投げ大会は今年で2回目。175人の小中学生が集結。試技が簡単でなかなか気持ちが入らなかった中学生たちも、時間が経つに連れて勝負師の目に。誰もが気軽に楽しめる競技に、笑いの表情と真剣なまなざしのとのギャップが印象的でした。

⑤小中学校・保育園で卒業（園）式



思い出胸に新たな道へ

3月16日は朝日中学校で、19日には町内4つの小学校で一斉に卒業式が行われました。107人の中学生と92人の小学生が卒業証書を固く握りしめ、思い出多い学舎を巣立っていきました。25日には町内3つの保育園で卒園式が行われ、56人の園児が園をあとにしました。

そのうち中学校では、生徒会長を務めた鈴木香菜さん（大町）が、「仲間がいたからこそここまでこれました。これまでの宝物の日々をどうもありがとう」と同期生に感謝の意を表すとともに、「これからの人生の原点が朝日中であることを忘れません。誇りと希望を胸に歩いていきます」と卒業生を代表し力強くあいさつ。

式典後の教室では、担任の先生やクラスメイトとの最後のホームルームで目頭を熱くする生徒たち。最後の時間を目一杯使って別れを惜しんでいました。

④スポーツ指導者研修会

勝つためには食事が基本

スポーツ指導者研修会が3月11日、創遊館ホールで開催されました。

「勝つための食事」と題して講演に立ったのは、女子バレーボールVリーグでこのたび日本一に輝いたパイオニアレッドウィングスのコンディショニングト



レーナーで日本体育協会・文部科学省公認のフィットネストレーナーでもある山口喜代美先生。

明確な目標を持つこと。そして「運動（トレーニング）」「休養（睡眠）」「栄養（食事）」の3つのサイクルをバランス良く保つことが試合に勝つための基本。中でも食事の基本は、普段からの食生活が大切であり、その場限りの実践では効果が期待できないことを強調。また、食事のトレーニングも中学生までが限界。若いお母さん方はおばあちゃんの賢い料理を学んで、ごく当たり前の食事（毎日3食）をきちんと摂らせること。運動後はできるだけ早くタンパク質を摂取することが疲労回復のポイントになるので、子どもが家に帰ったらすぐに食べられる環境を整えておくことの大切さを、わかりやすく説明しました。参加者たちは、最高のチームを作り上げた実践に基づく話に、真剣にメモを取っていました。

みんな の ひろば



「言葉」と「言葉」より大切なもの

高校一年 志藤 渚（川通）

ケーション能力の不足を実感させられました。そこで消極的になってしまい、彼らから遠ざかり、内にもってしまいがちなのが日本人らしいのですが、ホストファミリーの「自信を持つて！同じ人間同士なんだから必ず仲良くなれる！」という励ましの言葉や優しい態度で、わたしの心の迷いも取り除かれていきました。会話がスムーズに進むと、人と話すことの大切さや楽しさを知りました。自分が今持っているだけの英語力を充分に発揮し、会話することができた達成感は、今でも忘れられない大切な思い出の一つです。

言葉が通じる環境の中では、忘れがちな会話のマナーや相手への思いやりも、

た後の拍手の海では「世界は一つなんだな」ということを実感できた気がします。一方、わたしたちと同行している同じ年頃の日本人に目を向けると、いろいろな人がいました。一生懸命会話しようとしている人、「イエス」だけを連発している人、ジェスチャーと単語で会話しようとしている人。わたしはというと、最初はつい愛想笑いを浮かべてしまい、うまく会話ができませんでしたが、多くの人と出会ったおかげでその気になり、気分はずっかりオーギーになっていました。今回のこの経験を通して、日本では当たり前に行えるようなことが、一歩外国に足を踏み出せば、「言葉」が違うというだけで大きな壁になるということを知りました。

言葉の違いが大きな壁に でも重要なのは心を開いて その世界に飛び込むこと 世界は一つなんだ

「みなさんは言葉や文化の違いを乗り越えて、海外の友達と心が通い合い、わかり合えたという喜びを感じたことがありますか。」
わたしは、中一の春休み、十二日間、オーストラリアでホームステイと学校生活を体験しました。以前からわたしの家では、ボラステイアホストとしてたくさん外国の人たちを招いて交流をしてきましたが、今回のこの体験は、両親や家族の力を借りずに、体当たりで自分の持つ力を試すいい機会になったと思います。

まず、この体験を通して一番感じたのが、「言葉の壁」と言葉がうまく相手に伝わらないもどかしさです。自分が今、相手に伝えたい、聞いてもらいたいことを表現できない、相手の気持ちを理解したいのですが、理解することができずに答えることができないという悔しさをたくさん感じて、自分の英語力、コミュニ

言葉の通じない環境の中だと気付かされます。かえって乱れた日本語を使っていた自分自身にも気付くのです。言葉は単なる会話手段の一つですが、その奥に、暖かい心や相手を知ろうとする、また、自分をもっともつと知ってもらおうとする気持ちが含まれています。言葉は知らなくても、まずはジェスチャーでも何でも使って自己表現することが、コミュニケーションの第一歩だと感じました。現地の学校体験では、歌を披露しました。日本語と英語の両方で歌い、終わっ

を開いてその中に飛び込めるかがいかに重要かを知ることができました。誰だっけ初めから外国語を上手になんて使えるはずはありません。ただ、そこから、自分がどう行動するか、積極的になれるかがコミュニケーション上達の秘訣だと思います。言葉の障害を取り払って劣等感をなくし、世界中の人々と楽しく会話することで、わたしたちの未来はもっと明るくなると思います。



栗木沢 / 佐久間 陽子 淳 さん さん

「結婚すると変わる人がいるっていいですけど、いつまでも今と変わらないサツ君でいてネ」と語る陽子さんに、「仕事と家事の両立はたいへんでしょうが、僕も協力するのでよろしくお願いします」と以外にも丁寧な姿勢の淳さん。話しを聞いてみると、実際に淳さんが洗濯物をたたんだり食器を洗ったりと、現代風の夫婦生活を営んでいる様子うかがえる。そんな二人の過去をちょっとだけ紐解いてみよう。

延べ2年間の遠距離恋愛は、実は順風満帆ではなかった。些細なことからケンカをして、互いの連絡が不通になった期間があった。しかし、勇気を持って携帯電話をプッシュしたのは、やはり淳さんの方。「楽しい思い出だけでなく、苦しさも一緒に乗り越えてきた感じがします。でもこの経験が、見えない二人の絆をなお一層強くしました」と当時を振り返る陽子さん。そのそばで夜空を見上げ、溢れる涙をじっとこらえる淳さんは「学生時代に、某スーパーでレジのバイトをしていた愛しの君に会いたいがために、たった1本のファミリーフレッシュを購入したのが、今の二人の原点かな」とボツリ。

今月の新刊
おすすめ本!



不運な女神

不運な女神
唯川 恵 著
駆け落ちから三年、年下の男との生活を必死で守ろうとした由紀江だが、静かな日常を波立てる恋に戸惑う女達。情感溢れる恋愛小説集。

けつこん・せんか檀ふみ・阿川佐和子著
家族を語り、恋を語り、快食快眠快便を語り、ときには犬とも語る。交遊10年を誇る二人が打々発止とわたりあう、涙と笑いの名対談。

残虐記
桐野夏生 著
失踪した作家が残した原稿。そこには、二十五年前の少女誘拐・監禁事件の、自分が被害者であったという驚くべき事実が記してあった。奔流のように溢れ出した記憶。

ボクって邪魔なの？
吉永みち子 著
「先生、ボクのこと忘れないでね。」から虐待されていた大介は、施設に向かう道すがら、そっとささやいた。うっかりしていると思っただけで、切ない子ども心を優しく包む物語。

▼ブラック・チャイナ―中国黒社会―規範なき大陸の暗黒年代記―(田 雁) ▼終わらざりし物語 上・下 (J. J. R. トールキン) ▼真昼の星空 (米原真理) ▼輸入野菜と中国農業―考えよう!― (大島一) ▼なやみはつきねんだな―相田みつをいのちのことば―(相田みつを) ▼地獄を極楽にする方法 (美輪明宏) ▼現代人の論語 (呉智英) ▼語る―大リーグ―年目の真実―(松井秀喜) ▼禪的生活 (玄侏久) ▼北朝鮮自壊―一日米中が握る軍事独裁国家の命運―(重村智計) ▼帰ってきたアルバイト探偵【アイ】 (大沢在昌) ▼トゥルー・ストーリーズ (ポール・オースター) ▼新語死語流行語【集英社新書0222】―こんな言葉を生きてきた― (大塚明子) ▼食品クライシス―『食』の質と量は安全といえるのか― 日経出版社 ▼はじめての茶道 2 茶の湯の楽しみ (秋山 滋) ▼黒い天使になりたい (谷村志穂) ▼黄昏の百合の骨 (恩田 陸) ▼1ポンドの悲しみ (石田衣良) ▼野ばら (林真理子) ▼柳生十兵衛七番勝負 (津本 陽) ▼初春 (はる) の客―御宿かわせみ傑作選― (平岩弓枝) ▼水墨で描く花の習画帖 (塩沢玉聖) ▼会いたかった―代理母出産という選択― (向井亜紀) ▼池上影の情報力 (池上 彰) ▼がんだから上手に生きる (田原節子) ▼乳がんはなぜ見落とされたのか―余命半年の私にできること― (山口真理子) ▼裏切りの同盟―アメリカとサウジアラビアの危険な友好関係― (ロバート・ベア) ▼夜回り先生 (水谷 修)

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。
町に対する意見や要望、提案みなさんの周りでの出来事や話題、日ごろ
感じていること、イラスト、質問などお待ちしております。

- あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場企画課 企画広報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)
- Eメール／kikaku@town.asahi.yamagata.jp
- ホームページ／http://www.town.asahi.yamagata.jp

町民の声

時折、町の工業団地から立ち昇る黒い煙

町での対応はどうなっているの？

全 国的に外で野焼きは禁じられていないはずですが、地球温暖化防止のために、町でも厳しく野焼きなどを禁止しているのではないかと思います。

しかし、時々町の工業団地から黒い煙が立ち昇る光景を目にすることがあります。ちよつといやな気分になります。わたしも春のこの時期、りんごの剪定柴を燃やすときはありますが、町での対応はどのようなようになっているのでしょうか。

【匿名】

町 では、農作物残さ(稲わら、剪定枝、つる等)や水田畦



畔雑草等の焼却は、年に一回程度行われるため、農業を営む上でやむを得ない焼却として考えています。

ただし、焼却による煙や悪臭等で交通に支障をきたすことや、町民の方から苦情がくるような場合は、野焼き禁止の対象にな

職員の方の対応について 近隣の町と比較して印象が良くありません

七 年ほど前に某町から転入してきた者ですが、某町の職員の対応が親切で好ましかったことを思い出します。その点、朝日町の対応は印象が悪く、機械のような対応に冷たさを感じます。また、一段上からのもの言いかたも気になることがあります。昨年は「くわえタバコ」で対応されたこともありました。何か勘違いしているのではないのでしょうか。

【町長】

町 民の方への対応、接遇については、常日頃より職員指導をしておりますが、不快に思われましたことに対しましてお詫びを申し上げます。

【56歳男性】

職員には今後一層、指導を徹

ります。ご注意ください。

また、工業団地から時々黒い煙が立ち昇り、いやな気持ちになる：ということですが、煙突からの黒い煙の発生は、関係法令によって規制されています。これまでも、黒い煙を発生する事業所には改善をお願いしてきましたが、今後も県の指導機関と連携を図って改善をお願いしていきます。

【税務町民課】

外に設置の掲示板が汚れています

役 場前の掲示板について、ガラスが汚れていて、中の掲示物がよく見えません。

【匿名】

ご 指摘いただき、ありがとうございます。即、対応させていただきます。

役場周辺の環境美化には、常に努めているところではあります。ですが、今後はより一層心がけていきたいと思えます。また、お気付きの点があれば、なんなりとお知らせください。

【総務課】

「町民の声」用ハガキの折り込み方法が変わります。

広報あさひまちに毎月折り込んでいる「町民の声」用のハガキについて、今年度から四カ月分をまとめて折り込むことにしました。町民のみなさんから、毎月四〜五件の声が寄せられますが、経費を削減する目的でこのような方法をとらせていただくことになりました。

ハガキが折り込まれる月は、四月号、八月号、十二月号の計三回になります。

これからも、町政に対するご意見やご要望をお寄せください。みなさんのご理解をよろしくお願いいたします。

役場玄関内に、花を咲かせようなこんにやく芋の花？(写真左) あるいはつぼみ？。見たこともない植物に、これからどうなるのか、期待が膨らみます。





■3月1日～3月31日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
栄町	阿部 遥菜 <small>はるな たいな</small>	女	貴幸・美世
西町	長岡 滯 <small>ながの ずい</small>	男	純一・香
水本	高橋 仁 <small>たかはし ひとし</small>	男	秋彦・仁美
助ノ巻	布施来瑠未 <small>ふせくるみ</small>	女	昭信・摩樹



おしあわせに

長岡 元広 (常盤)		長澤 由美子 (神奈川県)
長岡 重広 (太郎二)		結城 和美 (山形市)
佐藤 則義 (大町)		武田 友子 (西町)
佐久間 淳 (栗木沢)		佐々木 陽子 (真室川町)
遠藤 典明 (栗木沢)		清野 恵 (寒河江市)
長岡 良紀 (太郎二)		石沢 誉里子 (大江町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
大暮山	長岡 弘	和夫
太郎三	長岡 ツルノ	勇治

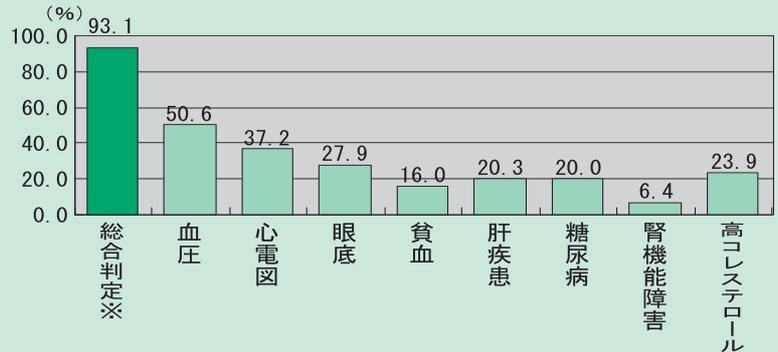
掲載を希望しない方は、お届けの際にお申し出ください。

人口と世帯数

●平成16年3月31日現在
 人口 9,036人(減23人)
 男 4,474人(減8人)
 女 4,562人(減15人)
 世帯数 2,576戸(減8戸)
 ()内前月比

きょうの健康 あしたの健康

平成15年度朝日町健康診査結果 (異常あり者の割合)



※総合判定：何か1項目でも異常がある人

受診者の約9割がなんらかの異常ありで、「血圧」の項目では異常あり者が男女ともに受診者の約半数を占めました。年代別に見ると、50歳代の男性に異常が発見されることが多くなっています。

自分では健康と以为っていても、実際は生活習慣に関わる色々な病気が隠れているかもしれません。現在お医者さんにかかっている方は、かかりつけの先生にご相談ください。

ここで、朝日町で実施している健康診断を紹介しします。

※基本健康診査：身体測定(身長・体重・肥満度)、血液検査(赤血球・白血球・コレステロール・中性脂肪・血糖値・腎機能・肝機能など)、尿検査(腎機能)、眼底検査(眼底の血管の状態、全身の血管の状態を推測)、心電図(不整脈、心肥大、冠動脈の状態など心臓の異常の有無)、血圧測定、診察など

※胸部X線検査：肺や心臓の異常の有無

※腹部超音波検査：肝臓・すい臓・腎臓などの異常の有無

※がん検査：胃がん・肺がん・大腸がん・

子宮がん・乳がん・前立腺がん

※骨密度検査：骨の丈夫さの程度

※歯周病検査：歯や歯ぐき等の健康状態

※肝炎ウイルス検査：B型、C型の肝炎ウイルス感染の有無



健康診断は自分自身を知る鏡です。

健診で異常値が出ないよう、直前になって体重を落としたり、禁煙したり、節酒したりする人がいます。しかし、これでは無理に健診結果をよくするだけで、あまり意味がありません。

健診を受ける目的は、健康状態をチェックし、病気を早期に発見することと、健診結果を参考に生活を改善することにあります。

1年に1回は健診を受け、体を見直す機会にしましょう。

お詫びと訂正

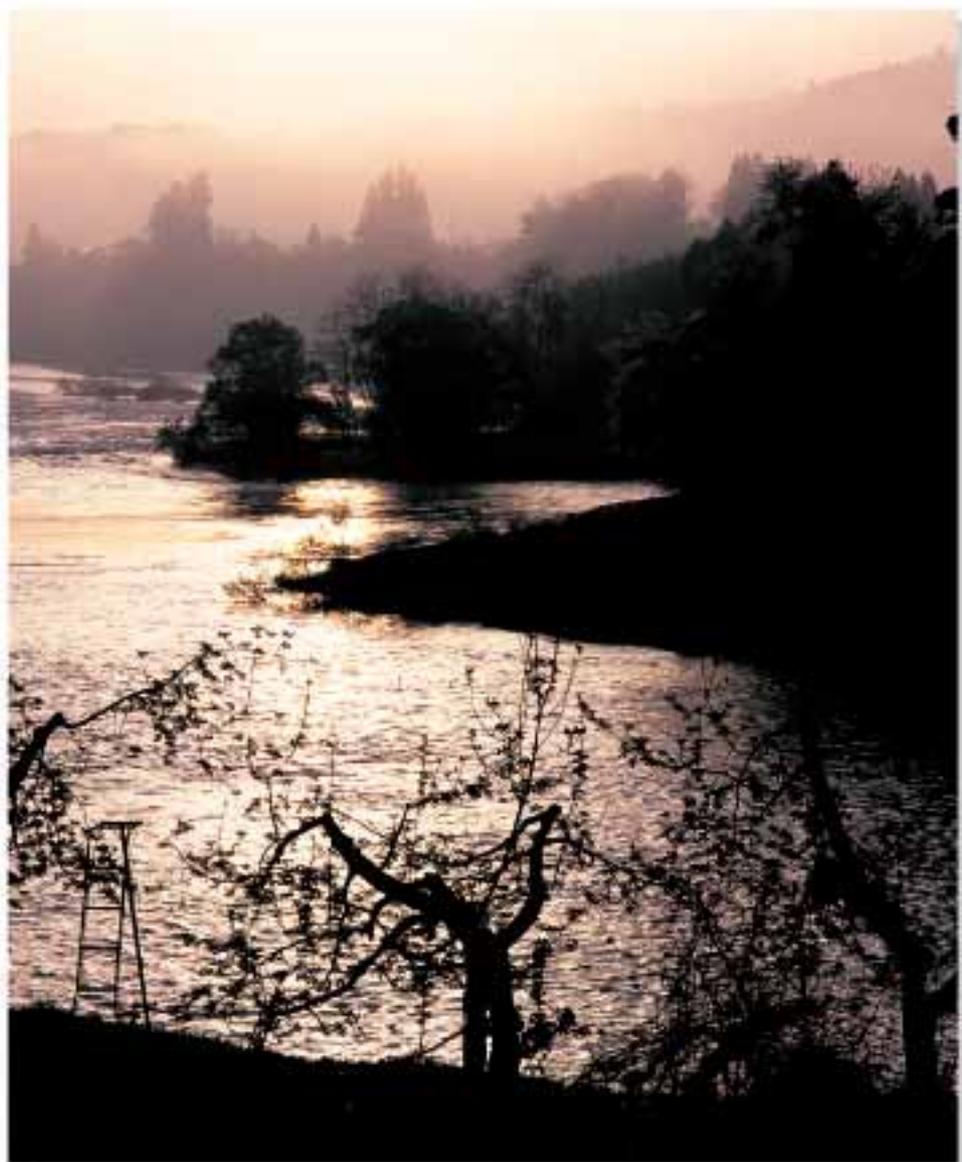
平成16年3月15日発行「広報あさひまち3月号」の19ページ、「人口と世帯数」に誤りがありました。正しくは「人口9,059人」となります。お詫びして訂正いたします。

朝日町の原風景

写真コンテスト作品 vol.12

優秀賞

春の岸辺



叔父から2眼レフのカメラを譲ってもらったことで、写真に興味を持ち始めました。
この写真は、朝日町らしさを表現したいと考え、りんご畑からりんごの樹をフレームに入れて最上川を撮影したものです。写真に立体感を

つけるために、日の出の逆光を狙って撮影しました。この場所には何度も通いましたが、もっと良い場面や瞬間がたくさんあり、それを写真に収めたかったです。

撮影者 柴田 昌巳さん(宇津野)

春夏秋冬

編集後記

昭和二十九年に一町二カ村が合併して現在の朝日町が誕生し、今年で満五十歳を迎えます。ちょうど半世紀が経過した今、この町も大きな岐路に立たされています。合併か、自立か。いずれにしても、大切なのは長い間連れ添ってきた「朝日町」の「町民である誇り」と「地域の絆」「親子の絆」をしっかりと持ち続けることだと思います。五十歳と言え、四月二十七日から二十九日まで開催される「県縦断駅伝」も今年記念すべき五十回を迎えます。昭和の合併当時、町(地区)民の親睦と融和を図るために始まったこの大会。故に、県民の誰もがこの

大会で熱くなれるのです。合併論議に揺らぐことなく、今年も「寒河江西村山チーム」は春の出羽路を駆け抜けます。一本のタスキに願いを込めて。朝日町からの出場選手は、長岡雄喜(太郎一)、石黒宏(大船木)、安藤茂昭(松原)、志藤雄人(川通)、岡崎能行(下芦沢)の五人です。選手にとってみなさんの沿道からの声援が何よりの励みとなります。ご声援よろしくお願いたします。号砲一発! よっしゃー、新たな年度もスタートです。春風に 胸躍らせる ふきのとう (はやけん)



広報「あさひまち」は再生紙を使用しています。